

平成29年5月22日

特定非営利活動法人

コミュニティラジオ京都

理事長 大垣 守弘 殿

放送番組審議会

委員長 谷口 みゆき

放送番組審議会意見書

当放送局番組審議会は、昨年5月の開局以来毎月1回定例会を開催し、放送された各種番組についての内容等について審議してまいりました。

開局1年に当たり、これまでに審議した内容についての意見と提言をまとめましたので、今後の番組編成等の参考の用に供していただきたく、ここに提出するものであります。

審議委員(平成29年5月22日現在)

委員長 谷口みゆき

委員 宮崎秀夫 藤中良二 高奥英路

伴戸恒夫 山口琢也 河村春奈

添付書類 1年間の審議会まとめと法人への意見書 別紙

別紙

1年間の審議会のまとめと法人への意見書

1. 現在の放送局の印象について

- ・学生だけが放送しているイメージが強い。
- ・若者だけに発信しているかの印象がある。

提言

- ・開局当初のイメージが固定観念として残っており、地域をもっと前面押し出し、地域と学生のバランスのとれた放送局というイメージ転換が求められる。

2. 放送局の認知度について

- ・まだまだコミュニティ放送局があることが知られていない。
- ・リスナーを増やしたいが、何を勧めて良いかわからない。

提言

- ・人に薦めやすい、分かりやすい、特色のある番組やコンテンツについて組織だった具体的な検討、戦略が必要と思われる。
- ・放送局の知名度向上についての計画を検討願いたい。

3. 番組内容にかかる事項についての要望等

- ・細やかな地域商店街情報の提供の要望がある。
- ・ラジオ放送という特徴を考慮して、視覚障害者リスナーからライトハウスの情報を発信して欲しいという要望もある。
- ・週末が音楽と舞鶴の番組しかないことから、番組の充実を望む声がある。
- ・癒し系として川の音や自然の音も聴きたいという要望がある。
- ・一日の時間帯別リスナーターゲットとコンテンツの研究を行い、特色ある番組制作を目指してほしい。
- ・学生が外に出て、地域を学び、地域から教えられ、地域の人々と一緒に番組を放送する方向も検討してほしい。
- ・年配者向けの番組や音楽があっても良いのではないかと思われる。
- ・学生の番組には年配の方々がゲスト出演することで、番組が引き締まることも考えられる。